

大阪体育学会第 61 回大会報告とお礼

令和 5 年 3 月 19 日に、和歌山大学において大阪体育学会第 61 回大会を開催させていただきました。

大変遅くなってしまったのですが、学会大会の報告と会員の皆様へのお礼を記させていただきます。

今回、大会テーマを「共生社会におけるスポーツ参加」としました。これは、多様性を包み込み、共生社会を実現しようとする今日の世界的潮流の中で、それに応ずる体育・スポーツの在り方を考える機会となることを期待して設定したものです。

開会行事の後、和歌山県立医科大学医学部教授の田島文博先生から「障害スポーツ発展に向けたパラスポーツ医科学」と題する基調講演をいただきました。先生のご講演では、医療としての超急性期からの運動療法を具体的事例に基づきながらお話いただきました。その中で、「安静は麻酔、運動は万能薬」と言われた言葉から、人間が健康に生き抜くための運動の必要性、重要性を改めて感じる事ができた時間でした。

その後、ポスター発表（13 題）をいただき、午後からは「共生社会における障がい者スポーツ」をテーマにシンポジウムへと移りました。

ご登壇いただいた先生方からは、実践を踏まえた貴重なお話をいただき、その後、フロアとのディスカッションを行いました。登壇いただいた先生方は次のとおりです。

○北岡大輔先生（和歌山大学附属特別支援学校）

特別支援学校教員からみた障がい者のスポーツ参加

—水中で体を動かす喜びを感じられる水泳指導—

○田中克実先生（東海学院大学健康福祉学部）

研究者からみた障がい者のスポーツ参加

—共生社会に向けた障がい者スポーツ：デフアスリート飛躍のために—

○中道莉央先生（びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部）

研究者からみた障がい者のスポーツ参加（特に肢体不自由者の立場から）

シンポジウム終了後、一般発表に移りました。ここでは、溝畑潤先生、陳洋明先生にそれぞれ座長いただき、大学の先生だけでなく、教育委員会の先生も含めて計 7 題のご発表をいただきました。

今回、準備段階では、会員の皆様にお越しいただけるような魅力的なテーマになっているか？近畿圏では交通の便の良くない和歌山大学にお越しいただけるのか？学会大会として成立するような発表題数が確保できるのかなど、迷いながらの日々でした。

しかし、当日を迎えますと、数多くの会員の皆様にご参集いただきまして、無事に学会を終えることができました。

ひとえに会員の皆様方のご協力の賜物と心より感謝しております。

ありがとうございました。

大阪体育学会第 61 回大会

大会長 林 修 (和歌山大学)